

議会運営委員会 行政視察報告書

須田 瑞穂

○静岡県藤枝市

決算審査特別委員会での事業評価と各常任委員会での予算への提言について

【所見】

藤枝市議会では、平成18年12月に、議長の私的諮問機関として「議会改革研究会」を設置し、平成20年7月に次へのステップとして、「議会活性化検討会」を設置、平成21年6月に「議会運営等活性化委員会」と、「議会改革研究会」も設置し、様々な議論を重ね、平成22年5月から、決算特別委員会を設置、令和5年5月から、予算、決算が特別委員会から常任委員会となった。

藤枝市議会の予算・決算の審査方法は、予算委員会については、議長を除く全議員、決算委員会は、議員定数22名中、半数の11名（1年交代）で審議を行う。決算については、議会選出の監査委員は決算委員会に加わらず、各常任委員会、総務、健康福祉教育、建設経済環境の3つの常任委員会が、それぞれ審査を行う。

また、藤枝市議会の決算審査の特徴として、年間の総括として重視し同時に来年度予算に反映させる年間のチェックサイクルを計画的に行っている。

効果として、各所管で行われている同種の関連事業との連携や他会計との関連など、市の施策事業を一体的に把握するなかで、より効果的なチェックと審査が可能となることや、議会側から、事業評価を一定程度行うことで、議会の権能の向上が期待されることや、事業評価等を行うことで、議員（委員）の資質向上につながる。更に、市議会の各会派内の調整により、それぞれに予算、決算の委員を選出していることから、委員会審査を迎え、各会派内での相互の意見交換、事前準備等、活性化が図られる効果があるとのことであった。

今回の藤枝市議会で視察を行った決算審での事業評価、並びに、各常任委員会での予算の提言の中身をしっかりと精査し、本市の予算、決算特別委員会に活かせるものをしっかりと議会運営委員会等で、議論し更なる足利市議会の向上に繋げていきたい。

○愛知県一宮市

議場の大型スクリーンの活用について

【所見】

一宮市は、平成 17 年 4 月 1 日、一宮市は 2 市 1 町（一宮市・尾西市・木曾川町）で合併した街であり、合併した際に合併特例債を活用し、新庁舎の建設に合わせて、議場の大型スクリーンが導入された。また、新庁舎の傍聴席から、議場内の様子が見にくい配置となっているため、一宮市の大型スクリーンは、傍聴席から本会議の様子を確認できるようになっているとのこと。

新庁舎の建設に合わせて導入した大型スクリーンであることから、設置時の費用、入札方法等については不明であり、維持管理についても、議長の音響、映像設備保守点検業務（年 1 回）の点検項目の 1 つとなっているためスクリーンに個別にかかる費用は把握していないとのこと。

運用方法については、各議員のパソコンやタブレットを接続し投影するため、データについては、特に指定はなく、使用する画像や写真等については、著作権及び肖像権が許可されたもの（議員本人が確認する）を使用するようにお願いをしているとのこと。また、議場内でのインターネット接続を禁止しており、一般質問の前（精読休会中）に PC を使用される議員については、当日使用するパソコンやタブレットを持参のうえ議場にて試写を行っていただき、その場でチェック（著作権等の許可・確認を得られたか、映り方等）を議会事務局、議事調査課の職員が行っているとのこと。データの投影に関して判断する場合、事前のデータ提出は行っておらず、モニターにデータを投影して一般質問を行う議員の割合は、おおよそ約 6 割の議員がスクリーンを活用し一般質問を行っているとのこと。

実際に、議場を拝見したが、確かに傍聴席から、直ですべて傍聴することは非常に厳しく、大型スクリーンがあることにより、全体を傍聴者は把握することができ、様々な役割を果たしているのを実感した。

今回の議会運営委員会の行政視察は、25 年ぶりに復活した行政視察であった。今後の本市議会の議会運営の更なる向上のために、議長の諮問機関として、引き続き、役割を果たしていかなければならない委員会であると改めて感じた大変有意義な 2 日間の視察となった。